

東北自死・自殺相談センター設立

宗教者と市民協働

来月、仙台で記念シンポ

宮城県の僧侶有志でつくる「東北自死・自殺相談センター」とうほくSottō」の設立記念行事が9月10、11日に仙台市青葉区のエル・パーク仙台で開かれる。

「Sottō」は、浄土真宗本願寺派の僧侶を中心に活動する京都自死・自殺相談センターSottō（京都

市下京区）が東日本大震災後に被災地で開設した、仮設住宅での居室訪問活動のボランティア養成講座を受講した地元の僧侶と市民6人で結成。北海道東北臨床宗教師会代表の高橋悦堂・曹洞宗普門寺副住職が代表を務める。

宮城県内の自死問題関連団体と連携しながら、被災者に限らず「死にたいほどの苦悩を抱える人」全般を対象にした面談方式の相談活動を行っていく。

了悟氏の司会で、高橋氏、カトリック中央協議会カリタスジャパンの喜代永^{よなが}文子氏、仙台グリーンフケア研究会理事長の滑川明男氏が登壇する。

また11日は自死問題や対人支援活動の概要などを説明するワークショップを行う。

高橋氏は「宗教者と一般市民が共に手を携えて活動することに意義があ

SeRV和歌山の発売



ると思っている。竹本さんらの指導も受けながら活動を充実させていきたい」と話している。

記念行事の参加費は無料。問い合わせは高橋氏
電話090（4880）1203、または京都自死・自殺相談センター電話075（365）1600まで。
（池田圭）